

筆山

第9号 / 1989. 12

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-816-7011 / FAX03-816-7044 編集人 / 戸田博之(38回)



写真提供＝朝日新聞社

十四年目の甲子園

この前は甲子園の宿舎に曾我部校長を訪ね、一緒に球場へ乗り込み、三回戦へと勝ち進んだ試合の応援席にいた。あるラジオ放送がやって来て試合の合間に「土佐高の野球についてしゃべって呉れ」といわれて、技術面は判らないので「質実剛健は武依別の昔からの気風だ」などと云っているうちに試合は敗色が濃くなった。校長が「これはいかんが」といった。試合は敗れて校歌はなかった。

今夏、十四年目の出場と聞いた時の喜びは人後に落ちない。また昔い中を出かけて行った。人波に揉まれて妙にひとりになって応援席にいた。試合はうまく進まない。隣の青年が応援で校歌を歌っている。「君も同窓か」ときこうと思ったが止めた。戦い敗れて、初めて正対して「残念でした」と挨拶した時、お互い名乗り合えなかったが気持ちよく通じた。その晩梅田で深酒した。

六回 近藤 久寿治

健(武依別(たけよりわけ))

土佐の古格

全力観戦記

●三十八回 片山 直久

母校野球部の久し振りの甲子園出場。決まった瞬間夏休みを利用して絶対初戦から観戦しようと思いついた。

実は高知県予選の優勝決定戦当日は大変でした。台風で試合が延びてイライラしていましたが、高知まで飛んで行く時間はちよつとありません。幸いにも部下の友人が朝日新聞社の高知支局に勤務中と聞いたので、職場から電話でテレビのゲームを刻々実況中継してもらった次第です。職場では私が土佐高野球部のOBであることは周知の事実で、甲子園が決まった時にはあちこちからおめでとうの祝福の嵐。非常にハッピーで土佐高野球部OBであることの誇りを率直に感じました(後日これをネタに奉加帳回しを実行)。

甲子園の第一試合、東亜学園とのゲームは過去の経験からして絶対勝てると信じていました。在阪の大学野球部時代の親友を先導役に甲子園に乗り込み、さらに先輩が密

判をしているので強引に頼み込んでネット裏に席も確保できました。野球観戦はネット裏という習慣が身につけており、スタンド応援はもう落ち着かない。むしろ汗をかきながら応援席で声をあげるのもやぶさかではありませんが、ネット裏でまず驚いたのは、

土佐高の久し振りの出場を手放して喜んでくられる声があちこちから自然に聞こえます。この日のグラウンドは土佐高のユニフォームを中心に、熱気がスタンドの至る所を取り巻いている異常な状況でした。ネット裏でY先生やH野球部先輩の皆様に何十年振りで会うことが出来たのもこの上ない幸運でした。審判団の方々には往年の六大学の名選手で、彼らに会えたのも土佐高甲子園出場のおかげです。おそらくかたは、審判の方々が皆「土佐高のゲームには審判をしたくない」と異口同音に話していたことです。その理由は土佐高をやや判官びいきで応援するファンの多いこと甲子園でミスジャッジで

もすれば大変なことになるとを心配しているのです。審判でありながらゲームを観戦して、自分達も心の奥で土佐高を応援する、これが本音のようでした。今更ながら高校野球の原点は土佐高野球部にありという言葉及びシンを見聞して、心踊る思いをした訳です。それと同時に、全国の高校野球ファンが何故甲子園に熱中するのか、やつと肌で分かりました。このスタン

ド・ネット裏に座ると自分が十六・十七才の選手になった気分になり、若さを取り戻した精神状態になるので、すね気は心、皆様哉と若かりし頃は云々をいいますが、この甲子園では実にあの汗臭い、楽しいという青春時代に帰れるのです。タイムトンネルを滑ったように。

試合の方は全力疾走で頑張りました。打棒が今一つ振るわず惜敗。やや全力疾走で疲れた感じを受けたのも皮肉です。しかし爽やかでした。久し振りの全力疾走、甲子園ファンは惜しみない拍手を送り、又来年の出場を心から期待する声援が多く、感無量の中にズッポリ浸れました。一方野球も勝負。やはり勝

つことが大切です。汗や土にまみれ学業も忘れずに甲子園を目指す。そして母校応援歌にもあるごとく「勝利への道まじぐらに」突き進んで欲しいものです。

土佐高野球部。我が人生の原点であり、社会に入ってからドンドン歳をとるにつれ、支えになるのはこの土佐高野球部であります。ミスター・ジャイアンツ長島の言葉を借りれば、正に「土佐高野球部は永遠」です。どんなに歳をとろうが野球を愛し、出来れば自分でも身体が許す限り続けたい。そしてどこに居ても土佐高及び野球部を見守り、これを礎に我々も幾多の困難に負けず働き続けたいものです。土佐高高校生徒諸君、頑張っ



のぼり持参で仕事もそっちのけの浅井、岩村、近藤、宮川の各氏

「下さい。君達が次の時代を担っているのですよ。」

●九回 中尾 成彦

十四年ぶりの出場という。一生の思い出にはなる東京から応援に行った。東京からは近藤先輩、浅井幹事長等見えておられた。孫に案内されてみた甲子園は昔と変わらず、若い人達に溢れにじみ交じってリーダーの指揮で拍手したり、大声を出したり、この日は若人にもどって立つろうか。少し疲れたが、評判通りきびきびしたプレーで善戦した母校の選手たちに心よ拍手を送りたい。応援団の皆さんも、苦勞様でした。

全役員を再任

懇親会で食中毒

学年幹事会

平成元年の関東支部学年幹事会は九月三〇日、八重洲のルビーホールで開催され、四十名が出席した。

会議では活動報告・会計報告・監査報告を承認、役員改選で宮地支部長以下役員全員が再任された。また、来年一月二十七日(土)に東條会館で新年総会を開催することを決めた。

懸案の支部名簿は新年総会までに作成する予定で、準備にかかった。

四年間にわたって筆山の編集長をつとめた小松勢津子さん(三五回)の後任に戸田博之氏(三八回)が選ばれた。

◇役員次の通り。

支部長 宮地博一 二二回
幹事長 浅井泰三 三〇回
副幹事長 満洲真清 三三回
同 窪田秀忠 三八回
事務局長 岩村康生 四一回
会 計 吉井雄二 四九回
会計監査 曾和純一 一六回
同 山本高敏 二五回
◇筆山編集長
戸田博之 三八回

会議に引き続きルビーホールで開催された懇親会で食中毒事件が発生し、一五名が高熱、下痢、腹痛などの症状を

みんなで飲めばこわくない

一木会誕生

去る九月二十日の同窓会学年幹事会で提案があった、毎月第一木曜日の銀座「土佐酒蔵」での飲み会(一応名前を「一木会」としておきます)の第一回目が去る十一月一日

宮地先輩以下総勢十四名の出席を得て盛大に開催されました。首領取りの宮川先輩は、なにしろ十人もの人数で予約してあったため集まるかどうかが心配であったとのこと。酒案ずるよりは生むが易し。酒好きの土佐人のこと集まらない害がない。宮川先輩が先日の食中毒事件を通じて大に「だ貴重な資金の内から体大(?)の血鉢料理を二皿も皆に振る舞ってくれたのは特筆事項。感謝。感謝。

飲む程に酔う程に談論風発

訴え、欠勤、早退、遅刻などの被害にあった。

原因は明に入っていたサルモネラ菌とみられ、自家製のマヨネーズをつくる際に増殖したらしい。

同ホールでは幹事会の前一日間にわたって食中毒をだし九九名の被害者が出ていた。



集う同胞意気高し

●十六回 曾和純一

九月二十一日「わげ」銀座店にて、保健文化賞受賞のため上京の尾本文之助君(安芸市小児科医・同期入学)をゲストに、支部から十八人が参加しました。

(出席者 池田、島内、曾和、田村、恒石、浜田、伴水野、由井、吉武)

●三十八回 戸田博之
十月七日、後楽園のすぐそばサテライトホテルにて三十八回生の同窓会開催。神戸から成岡夫妻出席。総勢二十七名。

●三十三回 佐々木泰子
「いやし、あんな〇〇さん」はずんだ声は三十一年前と変わらぬ三三回生の女性陣。

十月二日。朝は晴れちよつたに、昼前には生憎の雨。めつたに来ん赤坂の「吉美」に集まった土佐名、久美りに会い、少女に戻ったマドンナ達(オバタリアンとは違います。念の為は、おいしい料理とおしゃべりに時を過ごし「又、来年」と再会を約束しました。

かつて「入試まで後二六五日……」とか当時の大嶋校長



土佐っぱは男もエエが、女もエエ。(33回)

にはっぱをかけられ、大勢の男子と共に頑張った元少女達は、三二年度の今、立派に成長しました。しっかり大地に足をつけた「良妻賢母」になっていました。

●二十八回 壺坂・青島

十月三十一日、六時半より有楽町東大紅で。中華料理を囲み男女二九名が忘年会をかねて参加しました。

四三年前 中学入学生後すぐに転校された方や、卒業以来三六年初めての方、また既に故人となられた方の御家族の

参加もあり、和やかな会になりました。年のせいか孫の話は勿論、早々と来世安住の地を買い求めた話とか、話題は広がり秋の夜も短く感じました。

●四十二回 藤栄俊一
今年は母校が甲子園出場。全力疾走の爽やかな良い校風だと好感度百%で誇らしく思いました。どうか土佐高の皆様、頑張ってください。母校あつての我々です。

土佐高の厄年(42) 回生は今年厄年を迎えました。先輩諸氏からは厄介者よばわりをされ、久しく誹謗に耐え続けてまいりました。

「これじゃあいかんぜよ」と市役所勤務の暇人、掛水兄が首領取りとなつて「なん

か、ばあつとはでなことをせんと、厄もぬけきれんぜよ」

「ほんなら、ばあつと花火でも打ち上げてみかえ」丁度

同窓会の予定もあるきに花火を見て、「臨水」でちよこつ

と。厄年をものともせず

に新築開院した深田医院の披露宴の席上、話がまとまりとんとんとんと、いかに世の

常、人の常。

時間が無い、金が無いのがこの世代。「女房を質に入れ



厄年(42) 土佐高

ても」の心意気も、質草が償却済みでは足もです、集めたお足は十六万両「せめて尺玉欲しいわ」二尺玉を空高く」の夢も萎んで鏡川。川面に揺らめく仕掛け火とこぼし。

場所河畔の臨水亭、時は四日遅れの十二日、集う同胞意気高し。都を見捨てた西内兄の呼掛けで、瑞穂の国の隅々より馳参じたる、おじんおはんは八十余名。卒業以来

初めての無礼講。花火の囃子は無けれども、飛び交う声と酒の杯。狸とパンツも踊り出て、飲めや飲めやの乱痴気騒ぎ。「後は野となれ、山となれ」肩組み合つて柳町。

ちよこつとのあやに
あさがえり

サルモネラ菌という奴はタチの悪いことに潜伏期間が二四時間もあつて、なかなかその正体を現れさない。

幹事会に土曜日だ。つた。翌日曜日に元氣だった人がその夕方から月曜にかけて突然、下痢、腹痛、高熱などに目撃された。原因がわからなくて大半の人は風邪をひいたと思つていた。

キンビールにリクルートされた丁君(五回)は初出社の月曜日の朝、二九度を超す熱と猛烈な腹痛、下痢のため欠勤した。翌日もついに起き上がれなかった。大事なス

タートの二日間なのに……ひどい風邪にかかったものだと後悔した。

女性の中でも元氣印のTさん(二八回)は、幹事会の夜遅く帰宅すると高知からサバ登司が届いていた。これをまた食べた。そして腹痛、サバ

登司が原因かと思つた。

「酒を飲み過ぎた」と、じつと反省していた」という殊勝

な人も。一方「以前ポリ

ープを切ったから、今度こそは駄目かと思つた」という深刻な人も。

前立腺の手術直前のS氏は高熱で手術の日程を延期。主婦Fさんは、寝込んで家事どころではない。学入で鹿児島に出張したO氏は、宿で寝てばかり。独身女性のYさんは点滴をうけた。出社したもののS氏はほとんど会社社の応接室で寝ていた。

風邪、サバ、酒を無実の罪におとし入れたサ菌の行状は例をあげればきりが無い。出



席者四十二名中、二十五名がダウンしたが、サ菌も顔負けの元氣なひとでもやっていた。

「ほとんどの料理をおいしくいただきました。どなたか熱でもだされたの？」いつも明るいTさんを西の横綱とすれば、東は筆山新編集長のT氏。「うちはご存知の通り、殺しても死なないほうですの」と奥さん。はたして全部食べたというのにピンビ

ンだった。

一方、アルコール消毒では名高いM氏の場合、奥さんは「何ともないようでした」だったが、実態は「二日間」にわたるひどい下痢。「わしぐらいの歳になると、女房にはい

んで我慢ががじや」幹事長のA氏。「ジンマシンが出たけど、関係ないろうか」これはアリに噛まれたのが原因というところまでケリ

かなりの重症だった甘党のM氏から「オレも、サルモネラデネラア」(おれもサルモネラで寝ろあ)のユーモアのあるハガキをもらったのは騒ぎも一段落した約一週間後。

その頃ビールホールとの見舞金の交渉が本格化した。三十五回の浅井和子弁護士が粘り強い交渉を続けてきた結果、総額九〇万円の見舞金と、出席者全員への菓子おりで示談に至つた。

浅井弁護士はこの交渉を無償で引きうけて下さり、気持ちだけでおれという事務局の申し出を固辞された。末筆ながら書き添え、あらためて感謝の意を表したい。

(事務局 岩村康生)

同学社版・新修ドイツ語辞典刊行

株式会社 同 学 社

取締役
社長 近藤 久寿治

(6回生)

東京都文京区水道1-10-7
電話(03)816-7011(〒112)

三菱電機株式会社

相談役

進藤 貞和

(3回生)

〒100 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

放送大学学園

理事長 宮地 貫一 (21回生)

本部 千葉市若葉2丁目11番地
〒260 電話(0472)76-5111(代表)
連絡所 東京都港区虎ノ門1丁目14-1
〒105 郵政互助会琴平ビル4階
電話(03)502-2770(代表)

浄水場・下水処理諸施設の運転・維持管理

月島メンテナンス株式会社

取締役社長 吉澤 信一

(16回生)

〒104 東京都中央区月島4-8-14
TEL 03-533-6271

神奈川歯科大学教授

常務理事 門脇 稔 (25回生)

自宅/神奈川県逗子市の根2-6-3 ☎(0468)72-1213

圧縮空気除湿装置
吸着精製装置

AUTOPUREX



丸谷化工機株式会社

代表取締役社長 山本 高敬 (25回生)

〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル

壺坂電機株式会社

代表取締役 壺坂 博文

艶子(28回生)

〒192 東京都八王子市石川町1683-1
☎(0426)46-1127(代) FAX 46-1834



公立教育研究会

取締役
教育主幹

岩谷 清水

(27回生)

東京都千代田区五番町3番1号 〒102
五番町グランドビル
電話03-234-4651(代)
大阪市北区西中島5丁目6番6号 〒532
公文教育会館
電話06-364-7611(代)



東海支社長 小笠原 博幸(29回生)

〒460 名古屋市中区錦2-17-21
電話(052)204-4500

情報から活力をうみだすバリュー・クリエイター

NTTデータ通信株式会社



代表取締役社長

泉谷 良彦

株式会社 ユニバーサル・ネットワーク・サービス

東京都中央区築地4丁目7番3号 TEL 03(5565)3883
〒104 築地ファーストビル4F FAX 03(5565)3886

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社

代表取締役社長 秦 郷次郎
(31回生)

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル
電話 (478) 3694番

リクルート人材センター

社長 溝渕真清 (32回生)
内田靖子 (57回生)

労働大臣許可13コソフモ0001号
東京都港区西新橋1-10-2
リクルート西新橋ビル 〒105
電話 03 (568) 9141 (代表)
新宿 / 横浜 / 神田
名古屋 / 福岡
相談 / 神戸

日章造園株式会社

代表取締役社長 千原 望 (33回生)
代表取締役相談役 澤村 良節 (33回生)

東京都目黒区下目黒3丁目8番5号 〒153
Tel. 03-716-3221 / Fax. 03-716-3226

弁護士 浅井 和子
(35回生)

〒102
東京都千代田区麹町4-7-2
直江・浅井・法律事務所 TEL (221) 8831
FAX (222) 0181

エレクトロニクス革命の最前線で、
夢を現実に変えてゆく。
カシオは第三の波の頂点に立つ。

CASIO

取締役楽器推進本部長 羽 方 将 之 (38回生)
兼 研究部長



くもん出版

株式会社 くもん出版

代表取締役社長
中 城 正 堯

東京都千代田区三崎町3-6-9 〒101
日通千代田ビル
TEL (03) 239-1427 (直) (03) 234-4001 (代)

Management & Systems Consultants

株式会社 システムズ プランニング

代表取締役 小 倉 璋
(32回生)

本社 東京都新宿区本町4番地4 祥平ビル3F
〒160 電話 03 (351) 0351
大阪 大阪市北区西中島3丁目18番21号 南緯ビル3F
事務所 〒532 電話 06 (306) 5636



リクルートホテルグループ

晴海グランドホテル 03 (533) 7111

川崎グランドホテル 044 (244) 2111

芝グランドプラザ 03 (434) 5761

顧問 溝渕真清 (32回生)

積水ハウス株式会社

東京営業部長 片岡 勇 征 (34回生)

東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー5階
☎ (03) 346-6800

メガネ、コンタクト、補聴器のことなら
何でもご相談下さい。

世界一のメガネ店と松下幸之助氏激賞！

全国50店舗 **富士メガネ** 大手町店

取締役店長 窪 田 秀 忠
(38回生)

千代田区大手町1-6-1 大手町ビル
TEL 03-214-4751 日祭日(休み)

セキシステムサプライ株式会社
〒213 川崎市宮前区初山1-21-31

☎044-976-8801

株式会社 セ キ

〒567 大阪府摂津市島刺下2-1-1

☎0726-54-3733 代

取締役社長 関 雅 夫
(39回生)

KOHO PROMOTION

専務取締役

中 島 宏 (38回生)

株式会社コホプロモーション

〒107 東京都港区赤坂2丁目6番16号 TEL (03)587-1511(代)

FAX (03)582-2223

衆議院議員 田村良平

秘書 田村公平 (40回生)

国会事務所 〒100 東京都千代田区永田町2-2-1

衆議院第一議員会館530号室

電話 03-581-5111 内線 5530・6530

03-508-7260(直通) FAX 03-502-5875

高知事務所 〒780 高知市本町5-6-35(つらばしビル2F)

電話 0888-75-7556 FAX 0888-24-1410

北本善彦法律事務所

弁護士 北本 善彦
(39回生)

〒102 東京都千代田区麹町4-5-10

麹町アネックス2F

TEL 03-239-5681

FAX 03-239-5683

TELEX 232-4668-TASLAW J



住まいの情報センター

ミツバ ホーム サービス

代表取締役 中屋隆彦 (41回生)

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷2-13-1 平沼ビル・幡ヶ谷北口駅前
TEL (03)320-0320 FAX (03)378-7097

株式会社日本テクナート

(株)日本アステック (株)フェイス

代表取締役 小島三郎 (40回生)

取締役営業部長 門田健一 (43回生)

技術部主任 島内 聡 (53回生)

本部 〒168 杉並区和泉4-42-32
TEL 03 (313) 7251代表

坂本歯科医院 矯正歯科

坂 本 隆
(42回生)

〒211 川崎市中原区小杉町3-441
(東横線武蔵小杉駅前)
(電) 044-711-8148

弁護士

田 村 公 一
(41回生)

〒107 東京都港区赤坂4丁目8番6号
赤坂余瀨ビル4F
南青山総合法律事務所
電話 03-403-5708
FAX 03-403-5739

ウッドオフィスグループ・株式会社日本EJシステム

取締役社長 伊与木俊郎 (50回生)

東京都港区南麻布3-19-13麻布スカイビルディング ☎(03)444-0051

藤宗俊一 (42回生)

APSS. 藤宗俊一・建築都市研究所

〒150 渋谷区道玄坂2-19-3, L.M.A.07: 03-770-0267

〒780 高知市高須新町2-1-12, 2F: 0888-82-7936



初代校長

三根 円次郎先生

父

長男 二根 徳一

(ディック・ミネ)

大学を卒業して、最初父の言うとおりに郵政省に入ったが、仕事のつまらなさに閉口して、学生時代の仲間とジャズバンドを作り、ステージに立つてドラムをたたいたりしていた。

「近頃、小遣いをせびらんが、おまえ役所というのはそんなにもうかるのか」

これが、父の最初の質問でありました。

「このごろ変な歌を歌っているディック・ミネというのはおまえか」

レコードが売れまくって、とうとう父の耳にまで入って

しまったのです。怒られるのを覚悟して「はい」というと

「世の中、どんな商売もある。やる以上は恥ずかしくないようにやれ、トップになれ」でありました。

父は息子に対しては自由放任でありましたが、自分の学校の生徒に対しては、実に細やかに、一人一人の個性を見抜いていた様子は当時の在校生である方たちがよくご存知かと思えます。

「嘘つきはいらん」

……怒られた話

山形の小学生の頃、小石を

板塀に出来ている小さな節穴に投げ入れて遊んでいたら、たまたま的をはずして自分のおでこに当たり、血を流して家に帰って母に正直に話さずに、「道を歩いていたから、どこからか石が飛んできて怪我をした」と嘘をついた。母は

そのとおり父に伝えたのだが、三つ上の姉が、違う違うあれは自分で投げた石がはねかえったのよと言ったために、父に「嘘つきはこのうちにはいらん」と怒られ、山形の雪が一メートルも積もった中にほり出されたのです。その時はただただ寒さにふるえ、ばあやに助けを求めたのです。

父に許しを請いたの。父は父から、これから学校の先生のとこへ行って、あやま



章小日旭氏
勲四等時
勲叙デ
(昭和54年)

って来たら家に帰って来ても良いと言われ、ばあやと二人提灯を持って先生の御宅まで、一里の道を雪の中、黙々と歩いたのでありました。

誰にも帽子をとって挨拶するのが常だった。死の前日のこと、軍部の将校がこれを敬礼にせよと追ったが、父は教育方針は変えぬと、言い通した。腹をたてた将校は酒に酔って自宅に乗り込んで来て、父と言い争った。この出来事が引き金になって父は脳内出血を起こしたのである。

買った教育方針
私は教育者ではないので、校長の立場的な事については解らぬに等しいが、軍人・文部省・学校・生徒と毎日が忙しく苦痛の連続であったろうと思われま。その中で自分の教育方針を頑として通した父は文部省であれ、軍人であれ、岩のごとく動じなかった。

父は学校で「おはよう」と

親孝行したいときには親は無し。

昔の人は、確かに穿った事を言いますね。

平成元年

ディック・ミネ

支部だより

●支部活動報告(後期)

8・12高知の本部総会に宮地支部長出席。

8・26東海支部総会

9・30学年幹事会

10・14筆山編集会議

10・28名簿作成委員会

11・11名簿小委員会

11・18編集会議、名簿委員会

●新年総会のお知らせ

平成二年一月二十七日(土)午後三時より。去年と同じ、東條会館で開催します。講師は三七回の野田正彰氏。

●年会費納入状況(平成元年度分) 九月二〇日現在、延べ七十八名、一四万六千円

平成二年度の年会費納入に協力をお願いします。

支部名簿を作成しますのでお金がかかります。年会費納入の方には無料で名簿を送ります。ぜひとも宜しくお願い致します。

年会費は二〇〇〇円。(学生は不要)郵便口座は東京7142816「土佐中・高同窓会関東支部事務局」まで。

●卒業三十周年記念誌「再会」発行

名簿にとどまらず、近況報告や写真まではいった豪華版の記念誌で、卒業以来三〇年をへて、全国にいる同級生の思い出の広場の役割を果たしている。表紙は田島征彦氏。(世話人代表は岡内紀夫氏)

●筆山会

●第17回筆山会ゴルフ

十月二十八日千葉県上総G.C.にて24名が参加。午前中快晴、午後大雨の中、沢村良節氏が優勝。紅一点の浅井和子氏が初の入賞を果たし、筆山会にも「マドンナ旋風」の兆しが見えてきた。

①沢村 良節	33回	85	G	H	N
②小松 建紀	33回	82	10	16	69
③浅井 和子	35回	42	40	73	72
BG小松 建紀		43	40	73	82

(その他の参加者)

北岡 5	吉沢 16	宮地 21
野沢 25	浅井 30	杉村 30
大倉 30	西内 30	大町 30
田所 30	三宮 30	松本 31
吉野 31	宮川 33	堀内 33
千原 33	池添 33	竹田 33
高島 33	公文 35	小松 41

昭和六一年夏、出身校(旅順高女)の同窓会が高知で開かれることになったので、私は喜び勇んで参加を決めた。三十七年ぶりに第二の故郷を見ることができたのだから。

昭和二十六年に高知を離れても、近沢夫人(澄さんの母上)私の歯ををさして下さった歯医者の奥さん(奥さん)、二九回の鍵山さん、三十回の野口雅子さん方とは、ずっと文通を続けていたので、連絡を取っているうちに在籍の二十回生のお耳にも入り、皆さんが集まって下さるという。恒石、梅原両氏のおかげで旧一D組が二十数名も。入学記念の集合写真と当時の間麗帳を取り出して、名前を照らし合わせて準備をした。土佐から松浦校長、小松教頭、町田事務長さん方が出て下さり、思いも

かれない晴れがましい会となった。



昭和25年 先生方

り恐縮してしまつた。集まつた顔、顔。みんな幼な顔が残っていて、大方の名前を言い当てることができ、自分でも驚き、かつうれしかった。前田徹さんだけは分からなかった。中一の時、あまりにも小さい少年だったので。B組から須藤浩一郎さんも出席された。皆、立派な社会人になった、中にはお孫さんを持つた

土佐の龍馬とおとめさんへ

土佐高の思い出③

吉田 富士子(元教諭)

人もいた。夢の様な一夜だった。

帰京後、在京の三十回生からもお招きを受け、この頃は更に関東支部新年会にも。多くの先輩先生や立派な卒業生の中で小さくなりながらも、高知弁に取り巻かれてうっとりしている。井の頭にあった土佐塾から程近い二鷹の私の家へ顔を見せていた二八回二

人もいた。夢の様な一夜だった。



昭和25年、桂浜 10クラス

九回の方達にも再会できた。終戦後、郷里でもなかった高知に引きつけて、温かい気候風土、そして温かい人情に包まれ、その上、天下の土佐高と縁ができて沢山の龍馬さん達と知り合い、自家製の山芋やお豆などをわけて下さるおとめさんという恵まれよう。

私はこの仕合わせに感謝する事しかできない。せめて心から野球部の御奮闘を祈らせて頂きます。

——吉田先生には長きにわたり連載して頂き、心より御礼申し上げます。末永いご健康と御多幸をお祈り申し上げます。(編集局)

募 集

●二十一回 宮地賢一

新しい編集局のスタッフの皆さん、ご苦勞様です。知人から娘さんの写真と一枚預かっております。一人はピアノ

(音楽教室の先生)、一人は歯医者さんです。ご連絡を待っております。

(TEL五〇二二七〇)

放送大学東京連絡所 宮地

●三十二回 竹中恵美子

二十五歳の長男(昭和三十三年三月十八日生)男のいのがと見え、オッチョコチョイが玉にきず、三井ホームに入社して四年目になりますが、いまだ意中の方に思われます。ぜひ土佐の方から願っておりますが。私は長き姑になるつもりです。(?)

●四十四回 小島三郎

「テカノ」とはテカニカル・アートを一つにした造語。各分野のニーズに応えマイクロコンピュータ・チップを用いて最適化された電子機器を開発・提供する会社の名前です。創業十五年を来年に控へ、テカノは大きく飛躍しようとしています。ハード/ソフト、文系/理系、もちろん男女を問わず、テカノ

トはあなたの参加をお待ちしております。数年以内を目標に高知での事業所開設も検討中。まずは本誌広告掲載の番号までお電話を!

消 息

●二十四回 山中和正

二十四回生の京浜地区在住者は、池上、清岡、橋、黒岩、重松、西川、浜田、松村、真鍋、山中、横田と思っておりますが、その他にご存知の方はお知らせ下さい。

●二十五回 山本高敏

二十五回生三浦敏秀君が去る十月十九日勤務先の会社の慰安旅行中に急逝されました。心から冥福をお祈りすると共に、皆様にご報告します。二十五回生はクラスメート総勢七九名。戦災で亡くなった一名を含め九名が世を去ったことになり、その比率はかなり高いと言われます。育ち盛りの小学・中学生時代が戦中戦後の食糧難時期だったことが原因でしょうか?

近 況

●三十一回 山本起久子

(同窓会会簿最多登場紹介)父一回、長女(私)三十一回、妹三十五回、弟二十七回、三

十九回、以上一大家族五名。その上、父に同窓会長式典挨拶短縮依頼すること再々。父校内散策中、廊下に立たせし弟発見音楽したとの話聞く。

●三十九回 大和田洋子

「趣味と実益」第一回編集会議の帰り、少々お酒も入り、よい気分で見学方と新宿東口までそぞろ歩き、フット時計を見る、十一時の特急まで二分あまり、私は挨拶もこそそ



こに脱兎の如く走りだし、余裕をもって乗車できました。日頃のジョギングの効果を改めて認識し、一人二マワリしている今日頃です。

●六十回 松下恭子

「無沙汰しています。私は九月十一日に高知の近藤病院で盲腸の手術を受けました。生まれ初めて初めての手術でしたが、あつという間に元氣になり、ほつとしています。編集

の方ががんばってくださいね。

●四十九回 吉井雄二

土佐高卒業して十五年。ある日、何となく「同窓生」という名前に記憶があり、ふと「こちら土佐高の……」が、今にいたっています。

●向井隆豊(十一月四日)

「二十一日」調布駅前の調布画廊にて開催された。(四四回生)。「不安、空漠とした不在感がほとばしり、眼にみえぬ詩のようなものを向井は一貫して追求している」評論家・針生一郎氏

同 期 会

●十八回 武市橋矢

八月三十一日、丸の内「POLESTAR」にて在京十八回生の同窓会。急を催した

たが、在京六名中四名、夫人同伴にて集合(小生の家内のみ病気のため欠席)。戦前の豪華客船「鎌倉丸」の一等船客食堂をそのまま移した雰囲気最高の部屋を、その昔さ

つそうたる海軍士官だった佐藤精一幹事の顔で借り切り、土佐中時代の脱白の日々を回顧しつつ、大いに飲を尽くした。席上中子園応援談義で、

ただでは野球にならん」説

と、「あれがえがじゃ」説とが火花を散らしたが、とにかく日本中のファンの見守る中で爽快に華麗に散った戦いは見事。

編集局よりお願い

●この度、編集局では「広告掲載者登録制度」を設けました。今までは前号掲載者を中心に個別依頼する方法でしたが、特定の個人に継続的な負担をかけると共に同窓生諸兄姉の広範な活躍ぶりを知る機会を狭くする面もありました。そこで新年より、百名を目

標に広告掲載して戴ける方を登録する事にしました。一掲載当たり二万円。御協力をお願い致します。

お問合わせ、お申し込みは事務局、又は広告担当の鶴岡致しませう。

●編集局では皆様の御寄稿をお待ちしています。近況報告会員の動向「フォーカス」歓迎、サークル募集、求人求職、花嫁花婿募集(本人、家族、知人) etc. 何でも結構です。1コマ百字前後にまとめてお知らせ下さい。

編集後記

●窪田君から電話をもらった時は彼の「岩村君が全部やってくれるさ心配せんでもえいぜよ」との言葉にまんまと引掛かりついつい「ほんなら引受けようか」と引受けてみたはいけれど、何が岩村君が全部やってくれるぜよ！彼が彼でものすごく忙しく、とても全部やってくれるなどという状態に非ず。

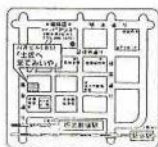
ホーゼン自失の状態から立ち直り、先輩、後輩の編集委員の皆さんのご協力を得てとにかく小松先輩が「苦勞されてこまで積み上げてこられた『筆山』の伝統を今後一層発展させて行こうと固く心に誓った次第であります。新しく発足した編集部は男女を問わずいづれ劣らぬ個性派ぞうい、教養溢れる(?)紙面作り、海外で活躍している同窓の皆さんを含め、多くの同窓生の参加出来る紙面作りを心掛けたいと思っておりますので皆様方のご協力を何卒宜しくお願いいたします。(戸)

●老いの二文字が眼前に見え隠れし始めた私にとって、若い方達との編集作業は回春の妙薬になるのではと淡い期待

を抱いての参加です。(内)



(編集会議) 左から大和田・内川・佐々木戸田・岩谷・藤宗・鶴和各氏



くじら刺 1000円
くじらたたき 2000円
かつおたたき 780円

新宿区飯田坂町41-12 川井ビル
TEL.03(209)0145

土佐へ来てみよう

SEIKO 山下成子(32回生)

大阪におこしの節は
ぜひお立ち寄り下さい。
お待ちしております。

大阪市北区曽根崎新地1-2-12 タテナバビル
TEL (06)341-8220

<土佐高出身のみなさまへ>

ますますお元気で 各方面に御活躍の由
とても嬉しく存じて居ります
銀座の シックで おおらかなお店ですので
お気軽に御利用下さいませ
若くてキレイな子がそろっています……
くらぶ はつとり

銀座8丁目角ゴルフビルB1 571-5333・572-2586

都会の中の小さな土佐



〒104東京都中央区銀座7-6-8(西五番街) ☎572-9640

- 赤坂店(赤坂みすじ通り) ☎585-9640
- 新宿店(新宿住友三角ビル) ☎344-8585
- 渋谷店(シオノギ渋谷ビル) ☎407-9640
- 酸ヶ丘(新宿野村ビル) ☎348-2727
- 加寿橋(新宿住友三角ビル) ☎345-0881

いごっそう

東京都港区六本木4-12-7

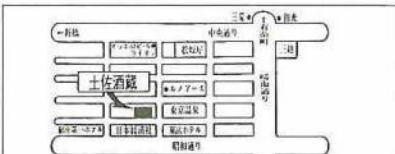
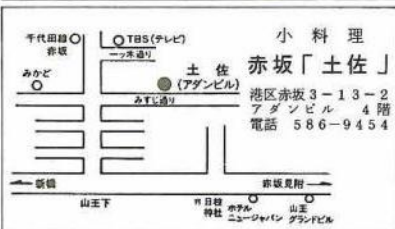
八森ビル4F

☎03(405)0152-0159

いごっそう本店

高知市追手筋1-10-19

0888-22-1213



季節のふるさとの味

銀座7-12-4 サンリード地階
☎548-3855 銀座第一ホテル通り

土佐酒蔵